

院内研究大会

第8回医療マネジメント大会

2005. 12. 2

日本糖尿病療養指導士のススメ

検査部 原 毅

I. はじめに

我が国の糖尿病患者数は約740万人とされており、罹病年数が長い症例の増加に伴って合併症を有する患者も増えた。しかし、糖尿病の病名で医療機関で受診している患者は250万人に満たない。残りは未診断か、治療中断例である。このような実態から、療養指導の充実が望まれるようになった。糖尿病治療の最終目的は合併症の発症と進展の防止である。特に進展した合併症によるQOLの著しい低下を予防するには、糖尿病療養指導従事者の質的向上と人員の充実が不可欠である。日本糖尿病学会認定の専門医数は2003年1月現在2,881人、指導医数は937人であり、急増する糖尿病患者の療養指導に対応できない。しかし、コメディカル専門職種の参加により、さらに療養指導の向上を図ることができる。そこで糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師の指示の下で患者に熟練した療養指導を行うことができる医療従事者に対し、この認定制度が誕生した。

II. 日本糖尿病療養指導士について

2000年、日本糖尿病学会等が母体となって、この資格を認定する日本糖尿病療養指導士認定機構が発足した。受験資格は、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士のいずれかの有資格者で、医療施設において2年以上継続して勤務し、その間に通算1000時間以上糖尿病患者の療養指導業務に従事しているか、又は過去に従事したことがある者である。

III. 利 点

診断基準、食事療法、薬物療法、合併症、患者教育についてなど、各職種の担当分野だけでなく、療養指導士の勉強をすることにより糖尿病療養指導に関することを全般的に学ぶことができる。またこの認定資格は、糖尿病療養指導という性質上、他の認定制度と違い多職種共通の制度であることから、他部門のスタッフと話す機会が増え、他部門の勉強会にも参加するようになった。職種を超えた横の繋がりを持つことができるのが有意義である。

IV. 対外的な活動について

日本糖尿病療養指導士は日常の診療活動中に接する患者だけでなく、患者会や地域活動の中でも活動が期待されている。そこで私は毎年、2つのイベントに参加している。一つは静岡県糖尿病協会主催の静岡ウォークラリーである。患者さんと一緒にクイズを解きながら約3Kmのウォーキングコースを歩くと共に、医療スタッフの一員としてSMBG測定を行っている。2つ目は全国糖尿病週間の一環として開催される、青葉公園におけるイベントへの参加である。ここでも他院の医療スタッフと共にSMBGの測定を行っている。

VI. 最 後 に

当院の医療スタッフは、この認定資格を受験する方が少ないのが現状である。もちろん取得したから完璧というものではなく、その後の研鑽、取組みが重要であるのは言うまでもない。しかし、糖尿病療養指導に関する全般的な事を学ぶに当たって、有意義であると思われる。ぜひ受験されては如何でしょうか。